

掲載事例は、国立教育政策研究所生徒指導研究センター『キャリア教育体験活動事例集・第1分冊』（平20年）から一部抜粋し、文章等を部分的に変更したものです。

神奈川県川崎市立^{かりやど}荻宿小学校

▶キャリア教育の視点からの様々な教育活動の見直しと、
地元商店街との連携による体系的な実践

1年生 学校ではたらく人、おしえてあげる (生活科 10時間)

学校生活に慣れた9月、学校で働く人々についての学習を計画した。用務員、事務職員、給食調理員、栄養士、養護教諭などに、どんな仕事をしているのか、インタビューした。

そして、グループごとに分かったことを発表した。この学習の後には学校で働く人々の名前を呼んであいさつをしたり、話しかけたりするようになった。



2年生 わくわくドッキン かりやどランド (生活科10時間 特別活動2時間)

子ども祭り「ファンタジーフェスティバル（2年生・秋の学校行事）」で、1年生と協力して、自分たちで遊びやルールを考え、お客さんが楽しめるような遊びのコーナーをグ

ループで分担して作った。当日は幼稚園、他学年、地域の人々等、様々な立場の人とかかわりを持つことができた。

3年生 地域の人とあくしゅⅠ —商店街でお手伝い—

(総合的な学習の時間 25時間)

町へ出かけ、店、工場、公共施設、交通などの町の様子や特徴について調べる中で、子どもが自分の住む地域のことにあまり目を向けていないという実態が見えてきた。そこで、地元の商店会の協力を得て商店での体験学習を計画し、社会科の学習を踏まえて展開した。

人の様子や工夫・努力に実際に触れることで自分の役割を果たすことの大切さや相手のことを考えた言動の重要性などを実感し、自分の生活に生かすことを目指している。

商店での手伝い体験は、学校や家族以外の人とかかわり方を学ぶ場としてとらえられる。商店の人やお客さんとの触れ合いを通して、自分の町のことを理解し、地域の一員としての自覚をはぐくむとともに、商店で働く

○商店や手伝いについて調べよう（9時間）
○手伝いする商店を決めよう（3時間）
○商店で手伝いをしようⅠ・Ⅱ（7時間）
○体験したことをまとめよう（6時間）
本単元を通して、子どもたちは達成感や自己有用感を得ることができ、地域の人々の暮らしや仕事への関心を高めることができた。



広島県庄原市立^{さいじょう}西城小学校

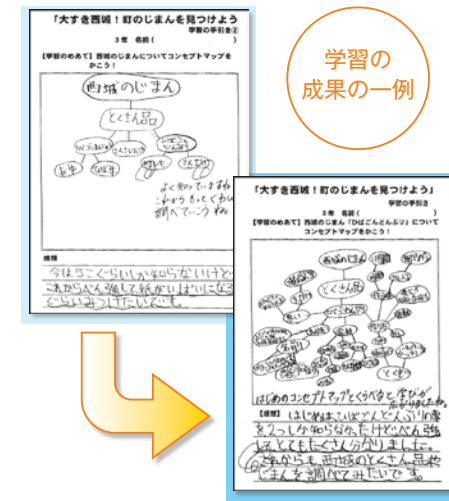
▶地域の食文化を生かしたキャリア教育の取組と、学習成果の把握の工夫

3年生 西城のじまんを見つけよう —「ひばごん丼」を作ろう—

(総合的な学習の時間 17時間)

1970年に地元に出没したとされ、ちまたを騒がせた謎の生き物「ひばごん」から命名された、地元の食材たっぷりの創作料理「ひばごん丼」。ゲストティーチャーを招いて「ひばごん丼」を作ることを通して、地域の食文化への理解と地域への愛着心を高め、仕事に対する理解を深める活動を展開した。

国語科・社会科等との関連を図りつつ、「西城の地域じまんマップを作ろう」「ひばごん丼のひみつをさぐる」等に合計9時間を充て、「ひばごん丼」づくりに2時間を充てた。これらの学習のまとめとして「学びをひろげよう」（6時間）により、パンフレットづくりを行った。



東京都三鷹市東第四小学校

▶社会教育施設を活用したキャリア教育の取組と、課題探究型プログラムへの発展

5年生 写真展から社会をのぞこう (総合的な学習の時間 20時間)

地域の人々とかかわりを通して社会を身近に感じ、仕事をするの意味や楽しさ、苦労や願いなど実感の伴った理解につなげる単元。

三鷹市美術ギャラリーにおいて開催される写真展を通して、美術館が企画する展覧会には多くの職業の方がかわり、様々な思いや苦労、準備を経て企画されていくことを知り、生き方を学ぶ活動である。

はじめに、テーマを追究し写真展を企画する学芸員の方や、設営の段階において写真展の開催を裏から支える様々な職業の方々（造作会社、デザイン会社、印刷会社）とかかわりの場を設け、写真展やそれにかかわる職業に興味を持たせた。同時に、子どもたち自身に校内で写真展を開く計画

を立案させる中で、校内写真展と自己とかかわりや見通しを持たせ、チャレンジする意欲の継続につなげた。この過程では、学芸員や写真家の方からアドバイスを得ながらテーマと役割を決め、それぞれに課題解決できるようにした。

